

九州沖縄ブロック研修会 in 福岡 企画のご案内

“ 今が未来 ”

変化する社会文化の中の助産を考える

キーワードは『つながりと絆』『体験と交流』

10月26日（金）10:30~12:30 ワールドカフェ

未来につながる助産活動 Part 1 ～あなたの未来像を描く：先輩助産師との交流～

『ワールド・カフェ』とは、「知識や知恵は、会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに話し、自由にネットワークを築くことができる『カフェ』のような空間でこそ早発される」という発想に基づいた話し合いの手法です。お互いにリラックスしてオープンに本音を語ることができ、初めて会う人とも気軽に話せるので、ネットワークが自然と広がります。

どんな現場で働きたいですか？ どんな助産師になりたいと思っていますか？ 開業助産師、助産外来、母乳相談室、新生児訪問・・・様々な現場で活躍する先輩助産師と交流することを通してあなたの未来像をみつけてください。「立場の異なる様々な助産師と話してみたい！」「先輩・後輩、ベテラン・新人・・・上下関係を越えてオープンに話してみたい！」そんなあなたの希望をかなえます。

10月27日（土）9:50~11:50 教育講演

面白い！身に付く！役に立つ！～効果的な学級運営と保健指導～

九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授 加留部貴行

従来、私たちが行ってきた保健指導は、専門家が「指導する」「教え込む」から「支える」「力を引き出す」健康教育へと、質を転換させていくことが求められています。母親学級や退院指導などの学級活動も、今や、単に人を集めて知識やスキルを教えるだけの場ではありません。

「人を育てる」「組織を育てる」・・・数多くの人材育成を手掛ける加留部貴行氏を講師に招き、演習を交えた体験型セミナーで、明日から、即、使える、役に立つ、保健指導・学級運営の技を伝授します。

[講師プロフィール] 福岡県出身。九州大学法学部卒。学生時代からまちづくり活動に携わり、西部ガス入社後も活動を継続。2001年にはNPO・ボランティア支援推進専門員として西部ガスより福岡市へ2年半派遣。西部ガス復帰後は指定管理者制度を担当。2007年からは九州大学へ出向し、大学改革プロジェクトを経て、ファシリテーション導入を通じた教育プログラム開発や学内外プロジェクトを担当。企業、大学、行政、NPOの4つのセクターを経験している「ひとり産学官民連携コラボレーション」を活かした共働ファシリテーションを実践。2011年4月に独立。現在は加留部貴行事務所 AN-BAI 代表。他に福津市行政評価委員会会長、柳川市外部評価委員会会長などを歴任している。

10月27日（土）市民フォーラム

未来につながる助産活動 Part 2 ～社会から期待される助産師になるために～

1日目のワールドカフェで参加者それぞれが助産師の未来像を描きました。それを受け、2日目の

”市民フォーラム”では各種市民団体パネラー、母子保健行政代表と、ディスカッションを通じて交流を深め、「社会から期待される助産師像とは？」を探ります。

参加者みなさんの力を結集して“福岡宣言”の採択をめざし、助産師の未来像を描きましょう！

10月26日（金）15:00～17:00 テーマ別実践セミナー

1) 産婦の主体性を尊重する～病院でできるフリースタイル出産～ 春日助産院院長 大牟田智子 しぶや助産院院長 澁谷貴子

「このままが楽」「動きたくない」「会陰を切開したくない」・・・産婦さんにそう言われたら、貴女はどうしますか？個人病院、大学・総合病院・自宅分娩・・・お産の場は様々。それぞれの場所で行われる「出産」「いのちの始まりと営み」を、プロとしてささえるのが助産師の仕事です。

助産院を開設し、主体的なお産、自然出産をサポートしている講師陣が、“安全で満足できるお産”を目指し、産婦の主体性を尊重する助産技術、アクティブバース、フリースタイル出産の介助法について、デモンストレーションをまじえ、わかりやすく解説します。

2) いのちの授業の現場から～幼児と保護者へのアプローチ～ めぐみ助産院院長 寺田 恵子

佐世保の小学生女兒殺傷事件をきっかけに、あまりに命が軽んじられている現代の子ども達に、大人として、助産師として、伝えられる事が何かあるはずと駆り立てられる思いで始めた『命の講座』。開催回数は80回、受講者総数は述べ8000人を超えました。お産の場面を通して、命の誕生の奇跡を伝え、これまで生きてこれたことへの感謝の気持ちを持つことを目指した実践活動はTV番組でも何度も取り上げられました。今回の実践セミナーでは、初めて”幼児とその親”を対象にした講座を開催します。

終了後、講座に参加した受講者と共に、実践を振り返りながら『いのちの教育』について考えます。

3) 母乳育児を成功させる～快適母乳ケアのコツ～ 聖マリア学院大学教授 松原まなみ

母乳育児支援の技は、乳房・乳頭の観察・ケアが重要であるとともに、乳児の吸着・吸啜の観察が重要なポイントです。Evidence Based Midwifery/Nursing (根拠に基づく助産 / 看護) の構築を目指した、吸啜メカニズムの研究をもとにして、母乳育児を通じた母と子の心とからだの響き合い、母子の絆、家族のつながりを見つめる『総合母乳育児』の視点を学びます。誰にでもできて、確実にトラブルを解消でき、しかも快適な母乳育児支援のコツについて、講義と演習を通してともに学びあいましょう。

4) [世界記憶遺産登録記念 特別企画] つないでくれた言葉～炭鉱住宅の記憶～

九州大学非常勤講師 農中 茂徳

炭鉱住宅での生活は貧しかったが、あたり前のように助け合いが行われていた。子どもたちは、みんな”家族”のように育てられ、自然とよその子への気配りもなされていた。

炭鉱の生活においては、赤ん坊は母親に、年長の子におんぶされ、坑内作業にも従事していた。炭鉱事故で失われた幼い命、女性の命は把握できず、数に載ることはなかった。

性教育、障害児教育に長くかかわってきた講師が、今回の講演では、炭鉱住宅で育った体験の記憶から、自らを育ててくれた言葉、いのちのつながりについて語ります。

[講師プロフィール] 福岡県大牟田市生まれ。炭鉱労働者の家族として育つ。高校生の時、三川鉱炭塵爆発を経験。友人たちが大学進学を断念せざるを得なかった中、奨学金を頼りに東京学芸大を卒業。その後、福岡県内の聾学校、養護学校教員として障害児教育、性教育に携わる。現在は保健医療科学大学で人権論の講師。

※上記1)～4)のうち、いずれか一つを選んでいただきます。体験型セミナーのため、参加人数に制限があります。